岡崎市立大樹寺小学校　校長室だより　令和５年７月２０日（木）　第４７号

大樹のこころ

良きスタートの１学期

令和５年度は、本校にとって節目となる１５０周年の年。特別な１年となるわけですが、この１学期とても良いスタートが切れました。

良いスタートの要因の一つは、１年生の落ち着きです。園から小学校へ入学すると、生活様式の違いに戸惑う子が多く出るものです。ところが今年の１年生は違います。とても行儀がよくて、小学校の生活にすぐに馴染んでくれました。校内巡視で１年生の子に出会うと、手を振ってくれたり手をつないでくれたりします。中には抱き着いてくる子もいます。素直な姿に、家庭での愛情ある子育てを感じました。

授業の充実もスタートダッシュの要因です。本校では、授業における「アイコンタクト」を大切にしています。アイコンタクトとは、発言する子へ体を向けて聴くことです。「自分の意見を聴いてもらえる」「自分のことを認めてくれている」という思いを、アイコンタクトを通じて育んでいます。こうした承認活動が、ハイパーQU（子供たちの意識アンケート）の高い結果となって現れました。学級での生活に満足していると回答した子が、どのクラスでも全国平均４３％を大きく上回りました。授業を通して、子供たちの良好な絆づくりができていると思います。学習の成果を発表する場として、６月に学習発表会を開催しました。子供たちは着実に学力を向上していくことができています。

昨年度より推進している「家康プロジェクト」も完全に浸透してきました。以前から取り組んできた「挨拶」「スリッパの整頓」「机上無一物」「授業参加」に、令和５年度から「雑巾ばさみ」をプロジェクトに加えました。雑巾を洗濯ばさみを使ってきちんとかけるというものです。掃除道具の整頓は丁寧な活動につながります。雑巾ばさみの実践が始まってから、校内の景観がより落ち着いたものになってきました。

１学期に大きな事件や事故がなかったのも、良いスタートと言えます。大勢の子供が生活をしているので、けんかやトラブル、放課時のけがなどは起こります。しかし、昨年度に比べて件数が減ってきています。内容も軽微なものが多く、深刻な事態になることがありませんでした。これは学校全体が落ち着いている証拠です。

授業を通した絆づくり、参加できる授業、そして整然とした環境。これらが相互に作用して、子供たちの心を安定させていると分析してます。学校で大切なことは、「安全・安心」です。その意味で、１学期は十分に合格と言えるものでした。明日からは夏休み。家族と過ごす時間を大切にして、新学期に向けて充電していってください。２学期の始業式で、元気な子供たちと会えることを楽しみにしています。